

学校業務改善 推進校 実施計画書

学校名 南あわじ市立三原中学校

校長名 山 崎 泰 秀

学級数	1 4 学級	児童生徒数	4 5 5 名
プロジェクトチームのメンバー構成	校長・教頭・主幹教諭 2 名・教諭代表1名・養護教諭 学校副主幹		
1．学校業務改善に係る自校の課題等			
教職員の事務処理に係わる時間が増加している。 ・ 1 学級の生徒数が 4 0 名近い学級がほとんどであり、学級担任の事務量が増えている。 ・ 校務分掌については、前年度からの引き継ぎがうまくいかない、仕事内容の共通理解ができていない等の問題があり、分掌によっては、負担が増えている。 問題行動の対応に追われ、勤務時間が増加している。 ・ 様々な反社会的な問題行動や不登校生の増加により、日々その対応に追われ、あとに事務処理を行うために、勤務時間が増加している。 ・ ノー部活デー、ノー残業デーを設定しているが、実質的には、ほとんど取れていない。 勤務実態について教職員の意識が低く、その意識改革を推進するための取組が不十分である。			
2．「学校業務改善実践事例集」等に基づく、課題解決のための取組項目（該当するものに○）			
○	（ 1 ）学校ルールブックの作成		
○	（ 2 ）電子ファイルの共有		
○	（ 3 ）児童生徒データベースの作成		
○	（ 4 ）出席統計作成ファイルの作成		
	（ 5 ）トライやる・ウィーク関連資料の支援ファイルの作成		
○	（ 6 ）校務・業務の効率化や I T 化		
○	（ 7 ）学校事務の改善について		
	（ 8 ）研修・会議等の効率化		
	（ 9 ）学校行事・事業の見直し・廃止について		
	（ 10 ）部活動のあり方について		
	（ 11 ）外部人材等の活用について		
	（ 12 ）勤務環境について		
	（ 13 ）その他（		
3．上記、課題解決のための具体的な取組内容と工夫する点			
生徒の基本となるデータベースを作成、生徒に関する基本的なデータを集約し、さらにデータベースから基本的な資料の作成ができるようにして、教職員の事務処理の効率化を図る。 生徒指導に追われている現状があるので、アンケート等における集計作業の見直し、校務文書のデジタル化、記録簿の I T 化等を行うことで、教員の事務の軽減を図る。 校務分掌の報告文書やデータを一元化するために、学校ルールブックを作成し、誰もが活用できるようにし、教員の事務の軽減を図る。			

上記(1)～(5)は「学校業務改善実践事例集」(6)～(12)は「教職員の勤務時間適正化対策プラン」の項目「学級数」及び「児童生徒数」は、平成 2 3 年 4 月 1 日現在。